

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	田尻地域福祉事業所 という		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの毎日の活動が固定化されないように、様々な活動を提供していること。	毎日の活動を考える際、職員だけではなく、子どもたちにも「やりたいこと・してみたいこと」を聞き、一緒に考え取り組んでいる。また、子どもたちが意欲的に取り組めるように、子どもたちの興味のあることを、日々の中から職員が見つけ出しミーティング等で情報交換をしている。	今後は、一人ひとりの課題を見つけ少人数や個別での活動も充実させるため、一人ひとりの課題を保護者との連携をとりながら内容を考えていきたい。
2	保護者との情報共有がしっかりでき、子どもの成長と一緒に考えていけているところ。	保護者面談の時は当たり前だが、送迎時や子どもに何か変化を感じた時は、すぐに保護者に伝え、一緒に考えていくようすべての職員が心がけている。また、少しの変化でも保護者に逐一伝え、また保護者の方が相談しやすい雰囲気を出すよう職員で心がけている。	今後はさらに、情報共有をしっかりと行えるよう保護者との交流会等の行事も取り入れ、保護者同士の交流の場所も増やしていきたい。
3	子ども自信が「というにいきたい」と楽しみにきてくれていること。	子どもは正直なので、まずは楽しんできてくれることが一つの支援の一つと考えている。子ども自信が楽しくなければどんな支援をこちらが提供しても成長につながらないと感じている。そのため、子どもを中心に考え「子どものやってみたい」をいつも大切にしている。そのやってみたいをその子の課題と結びつけるよう工夫している。	今後も子どもたちを第一に考え、子どもたちと一緒に居場所を作るという考えを職員が定着していけるよう、研修等取り入れていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	車いすの子どもが居るにも関わらず事業所のバリアフリー化の配慮が適切ではないこと。	一般的な住宅の賃借のため、なかなか思うようにすべてをバリアフリーにはできない。すべて車いす使用のバリアフリーにするには、莫大な費用がかかってしまうため難しい。	設置等の簡単にできるスロープ等はすぐにはできることなので、設置していきたい。また作業療法士さん等に訪問してもらい、車いすの利用児の様子も見てもらいながらできることをしていきたい。
2	地域の方々との交流の機会が少ないこと。	事業所だけの活動を考えてしまうことが多く、なかなか地域に目を向けられてないことが要因の一つであると考えている。また、周りの方々は何に使っている施設かをわかっていないことも要因の一つである。	今後は地域の方々との関わりを充実させるため、今自分たちがしていることを話せる場所を作り、放課後等デイサービスというをまず知ってもらおう。また地域でのイベント。福祉まつり等にも積極的に参加していきたい。
3	保護者同士の連携や保護者会等の支援ができていないこと。	定期的に集まる場の提供ができていないのが要因の一つと考えている。子どもの支援に目を向けがちでなかなか保護者会等に目が向けられていなかった。	保護者同士の関わりを増やすため、保護者も一緒に参加するイベントを多く取り入れてみる。また、保護者がホッと一息できる集まり会(カフェ)的な会を周期的に取り入れ、保護者同士が相談できる場所の提供をしていきたい。